

(3) 疾病の早期発見、合併症予防・重症化防止～推進すべき柱3

現状と課題

- 特定健康診査の受診率はまだまだ低い状況にあります。
がん検診の受診者数は増加しています。
- 脳血管疾患、虚血性心疾患（急性心筋梗塞や狭心症などの疾患の総称）の重症化防止対策として、糖尿病、高血圧、脂質異常症の管理が重要であるとともに、慢性腎臓病対策も課題となっています。
- 特に糖尿病の管理は、腎症、末梢神経障害、網膜症などの合併症を予防する上でも重要です。
- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）（肺気腫や慢性気管支炎などの総称）の予防のために、たばこ対策の推進も重要です。
- 歯周病は糖尿病や心臓・血管系疾患等と密接に関係しており、医科歯科連携も重要です。

- 平成22年度における特定健康診査の受診率は46.6%、特定保健指導の実施率は11.1%と低い状況にあります。市町村によっては、地区の健診結果説明会とその後の特定保健指導、健康教育等が地区的健康づくり活動の一環として行われているところもあります。健康教育・健康相談等保健事業の効果的な実施に努める必要があります。
- がん検診については、各種検診機器の整備、子宮がんや乳がん検診の無料クーポン券配布、時間外の子宮がん検診の実施、「がん検診啓発サポーター※」の活動などにより、受診者数は増加しているものの、目標数には届いていません。
がん検診受診者数増加のために、より一層の啓発活動が必要です。
- 脳卒中対策については、「島根県脳卒中発症予防のための治療指針」「島根県脳卒中予防保健活動指針」を作成し、医療の質の確保や効果的な予防事業の実施に努めています。
また、急性心筋梗塞や虚血性心疾患の発症や再発予防も重要ですが、糖尿病、高血圧、脂質異常症といった基礎疾患の治療中断も課題となっており、医療機関における管理を徹底することが必要です。
- 脳血管疾患や心筋梗塞の予防として、慢性腎臓病（CKD）***が注目されており、腎機能の管理も重要です。
- 糖尿病については、発症や重症化の防止と腎症、末梢神経障害、網膜症の合併症予防が重要です。
各二次医療圏で予防対策や重症化防止のための管理システムや「地域連携クリティカルパス」の運用が始まっています。
また、糖尿病療養指導士会や栄養士会等において、患者に対する栄養指導を行う体制の構築を目指しています。糖尿病の患者会は県内42か所あります。
- 年代に見合った適切な栄養指導や運動指導の実施が必要です。
- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）****は、喫煙が主な原因で発症し、生命を脅かす肺の疾患です。
禁煙指導の実施体制を整備する必要があります。
- 歯周病は糖尿病や脳血管疾患、急性心筋梗塞等と密接に関係しています。
歯と口腔の状況や全身の状況に応じた歯科治療や歯科保健指導が求められており、医科と歯科の連携が必要です。

※「がん検診啓発サポーター」

がんという病気の体験や経験を活かして、市町村や事業所等の啓発に協力している方々です。

※※「慢性腎臓病（CKD）」

「蛋白尿などの腎障害の存在を示す所見」もしくは「腎機能低下」が3か月以上続く状態で、糖尿病、高血圧等がその危険因子とされています。進行すると脳梗塞・心筋梗塞等のリスクが上昇し、人工透析が必要となるなど、健康に重大な影響があります。適切な治療や生活習慣の改善により、発症や重症化の予防が可能です。

※※※「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」

肺気腫か慢性気管支炎、もしくはこの両方によって起こる持続的な気道の閉塞状態のことです。気道がふさがってくると、閉塞によって空気が肺の中に閉じこめられるため、肺胞と血液の間で行われる酸素と二酸化炭素の交換がうまくいかなくなります。最大の原因是喫煙ですが、化学物質のガスやほこりに満ちた環境で働くことによって、慢性閉塞性肺疾患にかかる可能性は高くなります。

施策の方向

スローガン

『生活習慣病を予防し、悪化を防ぐ仕組みを作ろう！』
『みんなで生活習慣病の予防、悪化防止に取り組もう！』

- 特定健康診査や事業所健康診断、がん検診等の受診率の向上を図るため、各種啓発活動や声かけ運動を積極的に行います。
- 生活習慣病の早期発見・早期治療、再発予防や重症化防止のため、効果的な健診や保健指導の実施体制を整備します。
- 生活習慣病の患者を継続的に支援するために、医療機関間の連携に加え、医療機関と薬局が連携した服薬指導、市町村等が医療機関と連携した保健指導・栄養指導を行う体制を整備します。

(施策の展開方法)

- がんや脳血管疾患の発症状況を把握するとともに、高血圧、糖尿病、脂質異常症の治療状況を健診データ等から把握し、各種疾患の効果的な早期発見につなげるとともに、治療や保健指導の実施体制の構築を図ります。
- 市町村において、特定健康診査・特定保健指導、がん検診、健康教育、健康相談等を効果的に実施する必要があります。地域保健対策の指針を策定するなど、県と市町村がより連携を密にして、効果的な地域保健活動の展開を図ります。
- 特定健康診査やがん検診の受診率及び特定保健指導の実施率向上のためには、地域や職域へのアプローチが重要であり、「健康長寿しまね推進会議」「地域・職域連携健康づくり推進協議会」「保険者協議会」を活用し、多くの人が健診や保健指導を受けるよう啓発を行います。
- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）や慢性腎臓病（CKD）への対応が求められており、実態把握に努め、正しい知識の普及を図るとともに、早期発見のための体制づくりに取り組みます。
- 禁煙は慢性閉塞性肺疾患予防においても重要なことから、医療機関や薬局での禁煙治療や禁煙指導の普及を図ります。
- 脳血管疾患、虚血性心疾患等の発症・再発予防、糖尿病の重症化防止・合併症予防においては、適切な服薬継続や保健指導、栄養指導が重要です。
病診連携や診診連携に加え、医療機関と薬局が連携した服薬指導、市町村等が医療機関と連携した保健指導・栄養指導の定着を図るとともに、地域の実情に応じた保健事業を含めた「地域連携クリティカルパス」の作成とその普及、「お薬手帳」の活用促進等を図ります。
また、「栄養ケアステーション※」の活用等、栄養相談を受けやすい体制を確保します。
- がん検診の効果的な実施方法を検討し、市町村や医療機関、健診機関における実施を推進します。
- がん検診受診率向上のため、「がん検診啓発サポーター」の活動の場を増やすとともに、「がん検診啓発協力事業所」の拡大を図ります。
- 糖尿病重症化防止のために、医科と歯科の連携を図ります。

※「栄養ケアステーション」

生活習慣病や低栄養に関する栄養指導のほか、食育講演会や料理教室など、管理栄養士・栄養士が地域や医療機関に対して栄養支援を行うための拠点をいい、「公益社団法人日本栄養士会」が全国展開しています。